医療技術部

1．スタッフ

部　長：吉富（よしとみ）　晃子（あきこ）
副部長：柿沼（かきぬま）　廣邦（ひろくに）

① 臨床検査技術部門長：森大輔（もりだいすけ）
② 診療放射線技術部門長：羽手村昌宏（はてむらまさひろ）
③ リハビリテーション技術部門長：児玉了（こだまさとる）
④ 病理技術部門長：柿沼廣邦（かきぬまひろくに）
⑤ ME 機器技術部門長：吉富晃子（よしとみあきこ）
⑥ 輸血管理技術部門長：笹田景子（ささだけいこ）

医療技術部職員 186 名
（臨床検査技師 56 名、診療放射線技師 49 名、臨床工学技士 27 名、理学療法士 19 名、作業療法士７名、言語聴覚士５名、内視鏡技師３名、看護師 11 名、医療機器操作員２名、技術補佐員７名）

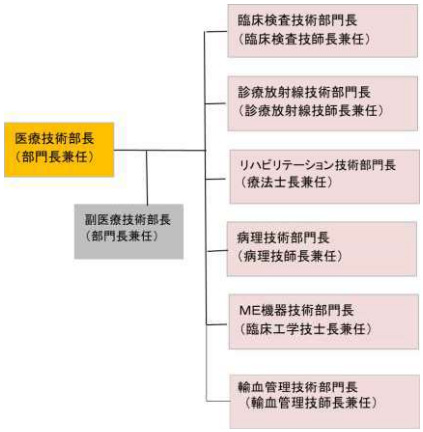
2．特徴、概要

医療技術部は、「業務の効率化と職員の資質の向上、及び病院の診療支援、経営改善への積極的参画」を目的とし、平成 28 年４月から臨床検査技術部門と診療放射線技術部門の２部門にリハビリテーション技術部門、病理技術部門、ME 機器技術部門、令和２年４月より輸血管理技術部門が加わり、６部門で構成されている。主な職種は、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、および看護師内視鏡技師で、職員は、各中央診療施設（中央検査部、輸血・細胞治療部、中央放射線部、リハビリテーション部、病理部、ME 機器センター、腎・血液浄化療法センター、中央手術部、集中治療部、光学医療診療部等）に配置され、それぞれの専門性を生かし日々の業務を遂行している。教育ラダーシステムに基づき専門的スキルアップ向上を行える体制を構築した。

3．体制

当部は、24 時間体制で各診療科の日常業務から救急医療及び先進医療等の診療支援を推し進め、本院の診療・教育・研究を支援協力する。また、タスクシフト・シェアについても各部門の専門性を活かした業務について推進し、医療安全に配慮した診療支援を有効に行うこととする。業務効率性を高めるためには、個々の意識改革を進め本質的なやりがいを求め、各部門が有する使命を再認識することが重要である。今後も医療技術部の設置目的である医療技術職員の教育活動を推進し、本院の理念と医療方針に基づく優れた医療人を育成する環境作りに努める。

4．組織図



5．実績

令和６年４月現在、全国国立大学病院 22 施設においてマネジメント改革の提言に沿い、病院経営と診療支援および医療技術者教育を推進する目的で運営されている。

① 令和６年度の活動
1）部門長会議（月１回）
2）医療技術部合同研修会（年４回）
3）タスクシフト・シェア WG 会議（年３回）
4）中学生対象のお仕事体験イベント開催

6．資質の向上

個人の資質向上の目的で、認定技師や専門技師等の資格を積極的に取得している。また、これらの資格取得により、大学病院の高い専門性にも対応できるようになっている。

① 臨床検査技術部門および⑥ 輸血管理技術部門の資格取得状況
超音波検査士（循環器、産婦人科、体表、消化器、泌尿器、血管）、心ｴｺｰ図専門技師、認定心電図技師、心電図検定２級、JHRS 認定心電図専門士、神経生理学会専門技術師、血管診療技師、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、分析機器・試薬ｱﾅﾘｽﾄ、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾞｸﾀｰ、細胞検査士、認定血液検査技師、認定一般検査技師、認定輸血検査技師、認定 HLA 検査技術者、細胞治療認定管理師、認定ｻｲﾄﾒﾄﾘｰ技術者、I&A ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ、栄養ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ専門療法士、糖尿病療法指導士、遺伝子分析科学認定士、二級臨床検査士（呼吸生理、病理、免疫血清、循環生理、微生物、臨床化学、血液）、緊急検査技士、認定救急検査技師、内視鏡技師、有機溶剤取扱作業主任者、医療情報技師、医療技術部門管理資格、健康食品管理士、肝疾患ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、隣地実習指導者

② 診療放射線技術部門の資格取得状況
医学物理士、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士、検診ﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨ撮影認定診療放射線技師、磁気共鳴(MR)専門技術者、血管撮影・ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ専門診療放射線技師、核医学専門技術者、救急撮影認定技師、血管診療技師、X線CT認定技師、乳房超音波検診認定検査士、認定医療情報技師、医用画像情報管理士、初級ｼｽﾃﾑｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ、画像情報技能検定３級、X線CT検査技能検定３級、胸部画像読影検定３級、放射線管理士、放射線機器管理士、臨床実習指導教員、第一種放射線取扱主任者、AHA BLS Healthcare Provider、DMAT隊員
③ リハビリテーション技術部門の資格取得状況
認定理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、理学療法士・作業療法士臨床実習指導者、３学会合同呼吸療法認定士、呼吸ｹｱ指導士初級、心臓ﾘﾊ指導士、心不全療養指導士、ICLS認定、心電図検定、FCCSｺｰｽ認定、BLS、がんﾘﾊ算定資格、がんﾘﾊ企画者資格、糖尿病療法指導士、ﾘﾝﾊﾟ浮腫算定資格、精密知覚機能検査算定資格、日本義肢装具学会認定士、日本摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会認定士、福祉住環境ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、両立支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、発達障害児指導士、福祉用具専門相談員、JSPO-AT、臨床神経心理士、失語症者向け意思疎通支援者指導者
④ 病理技術部門の資格取得状況
細胞検査士、国際細胞検査士、認定病理検査技師、緊急臨床検査士、化学物質取扱作業主任者、有機溶剤取扱作業主任者、特定化学物質作業主任者
⑤ ME機器技術部門の資格取得状況
不整脈治療専門臨床工学技士、呼吸治療専門臨床工学技士、周術期管理ﾁｰﾑ臨床工学技士、体外循環技術認定士、透析技術認定士、３学会合同呼吸療法認定士、臨床高気圧酸素治療技士、ｱﾌｪﾚｼｽ認定技士、心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞｰｼｮﾝ技士、第１種ME、MDIC認定士、専門臨床ME、日本急性血液浄化学会認定指導者、医療安全管理者、DMAT隊員

７．臨床試験・治験への取組

臨床検査技術部門、輸血管理技術部門及び病理技術部門では、国際規格「ISO 15189(臨床検査室−品質と能力に関する特定要求事項)」を合同で認定取得しており、臨床試験・治験業務においても積極的に参画している。ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部門は平成30年より皮膚科の治験において、筋力・筋持久力の評価を担当し、現在も継続中である。

８．地域医療への貢献

臨床検査技術部門は、県全体の医療レベルの向上と健康管理対策に対して、医療過疎地域の行政組織とタイアップした健康啓発活動として肝疾患センターと共同で展開した。病理技術部門では、がんゲノム医療に対応した標本作製を行っており、がんゲノム拠点病院として質の高い医療を提供している。
① 活動
病気の予防、早期発見をするためには、子供から大人まで正しい知識と自分の「からだ」に対する興味をもってもらうことが重要である。そのため、健康フェア、大学病院子供見学デー及び健康管理として検査カフェなどを実施している。
リハビリテーション技術部門においても、ﾘﾊ関連職種の研究発表・意見交換会などを行っている。また、生体肝移植後の自立歩行獲得に関係する因子について、年代別における後期回復期心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ移行の阻害因子の検討、心不全患者の腸内環境と身体機能の関連、経ｶﾃｰﾃﾙ大動脈弁置換術後においてHADを発症する患者の特徴、化学療法施行中の造血器腫瘍患者の身体活動量について、ｼﾞｽﾄﾆｱに対する上肢装具とその効果、多発性筋炎・皮膚筋炎の潜在的に進行する嚥下障害についての検討、VRを用いたﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの介入が入院患者の倦怠感・ｽﾄﾚｽに及ぼす影響など多岐にわたる分野にて研究も行っている。
なお、子供見学デーは昨年度まで、ｺﾛﾅ感染拡大の影響により中止されていたが、令和６年度はｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染対策に十分注意したうえで再開された。
・令和６年度研修引き受け者
臨床検査技術部門：１名
輸血管理技術部門：１名

９．医療人教育の取組

当部における医療人教育は多岐に渡り、本学医学部学生から卒後研修医、ｸﾘｸﾗ・ﾎﾟﾘｸﾘ実習、及び各職種の資格を取得するための養成校などの学生や社会人を対象とした卒前卒後教育に参画している。

10. 研究活動

大学病院の技術系職員としては研究も重要である。下記に令和６年度の研究活動を示す。
① 臨床検査技術部門＋⑥輸血管理技術部門
科研費１件、その他芸部研究費１件、受託研究２件、共同研究１件、英文論文１編、邦文論文４編、講演９回、全国学会11題、地方会17題
② 診療放射線技術部門
英語論文１編、邦文論文１編、総説６編、講演43回、国際学会１題、全国学会７題、地方会10題
③ 病理技術部門
邦文論文１編、雑誌編著２編、講演２回、全国学会２題、地方会２題
④ リハビリテーション技術部門
英語論文１編、講演５回、全国学会６題、地方会７題
⑤ ME機器技術部門
講演８回、全国学会８題、地方会１題